

京都医療技術短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

京都医療技術短期大学の概要

設置者	学校法人 島津学園
理事長	矢嶋 英敏
学 長	高橋 隆
A L O	笠井 俊文
開設年月日	平成元年4月1日
所在地	京都府南丹市園部町小山東町今北1-3

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
診療放射線技術学科		80
	合計	80

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都医療技術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について、単一学科の短期大学であるため、それぞれ一体的に位置づけられており、大学案内、学生便覧などに的確に示され、学生の理解のため、入学時のオリエンテーションなどの機会に明確な説明がなされ、また、教職員についても教員会議などにおいて互いに再確認をしていることについて、自己点検・評価報告書でも訪問調査でも説明を得ることができた。さらにそれらの定期的な点検などについては学長を委員長とする自己点検・評価委員会で組織的な点検が可能な体制となっている。

教育目的・教育目標はその達成に向かって、おおむね教育課程表に反映されており、また教育内容・方法の改善の姿勢もみられる。

教員組織は、短期大学設置基準を充たしており、また、教育施設・設備は良好に整備されており、教育環境はおおむね良好である。

当該短期大学の教育は、診療放射線技師養成教育であり、その目的達成のため、全学をあげて努力している。その結果、多くの放射線技師が社会に出て指導的立場で活躍していることは、大いに評価ができる。卒業生との接触、同窓会との連携については、就職懇談会や全国18地区にある同窓会に教員が毎年、出席し、卒業生・同窓会と接触していることは高く評価することができる。

入学に関する支援、学習支援、生活支援など学生支援の仕組みや体制は、基本的な要件は充たされていると思われる。とくに放射線取扱主任者試験の勉強会は専任教員のボランティア的指導の下、約10ヶ月間、実施されていることは高く評価できる。

研究については、科学研究費補助金を毎年2件以上も採択されるなど外部からの研究資金を得ていることや学外での国際会議や学術会議での研究活動は充分に行われている。

国際交流・国際的活動への取組みは、海外教育機関などとの交流を増やすべく、かなり積極的に行われている。

管理運営については、理事会、常務理事会の開催などその運営の改善が進んでおり、教授会の運営も、教授会の開催に先立ち、専任教員全員が出席する専任教員会議を開催するなどし、学長のリーダーシップのもと教授会も運営され、おおむね良好である。

財務については、財務運営がおおむね適切に行われ、入学定員も充足しており財務体質も良好であると判断される。

改革・改善については、今回第三者評価を受けたことも含め、相互評価や短期大学評価の重要性を認識し、その結果を改革改善に向けて取組む姿勢が感じられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

我が国の最も古い伝統をもった診療放射線技師養成校であり、建学の精神と技術開発に重きを置いた島津創業記念資料館の見学と、2月10日に行われるレントゲン博士の命日のレントゲン祭に学生を参加させている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

卒業生は全国に広がり、校友会、支部活動も活発に行われている。日本放射線技術学会や日本放射線技師会での会長や理事、監事として就任し、社会的評価が高い。

評価領域 学生支援

診療放射線技師国家試験の合格のため特別な授業を行うと同時に、放射線取扱主任者試験のための勉強会を開催していることは、特記すべきである。

評価領域 研究

短期大学から研究費を支給することなく、外部からの資金導入を行っており、かつ、科学研究費補助金を毎年2件以上もらっていることは高く評価できる。
研究室、実験室なども整備されている。

評価領域 財務

財務は健全で安定しており、借入金もほとんどない。

評価領域 改革・改善

ほぼ全員の教職員が参加して相互評価や第三者評価を受けており、改革・改善の成果

が上がっていると判断される。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

教養教育についてはすでに工夫をされているが、さらなる充実を期待したい。学生の授業評価アンケートについては、授業内容、方法の改善に資するようその活用が望まれる。

評価領域 教育の実施体制

助手がおかれていないので、実験実習の多い学科の性質上、助手・補助職員の採用が望ましい。

専任の司書を配することや図書廃棄システムを整備することなど、図書館サービスについて充実が望まれる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

卒業生に対するアンケートが現在中断されているが、就職先での卒業生に対する評価を聴取するなど学科教育へ反映させることが望ましい。

評価領域 社会的活動

地域社会との交流の施策の検討が望まれる。

評価領域 管理運営

理事会開催に際し、半数が委任状出席のケースがみられるので、委任状出席者の減少に努力されたい。

職員の研修には平成18年度から予算措置がされたが、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動のさらなる充実を図ることが望まれる。

非常勤者の就業に関する規定の整備を望みたい。

消防訓練を行うことや避難訓練の質的向上が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は単一学科の短期大学であるため一体的に位置づけられており、資料などに的確に示されている。

教育目的・教育目標は両者ともほぼ重複する内容であるが、明確に示されており組織的な点検が可能な体制となっている。

教育目的・教育目標を学生や教職員が共有するために具体的な施策がなされており、理事会と教授会との関係も連動している。

評価領域 教育の内容

教育課程は厚生労働省の指定規則に準拠しており、おおむね体系的に編成されている。診療放射線技師資格取得という学生のニーズに responding している。

授業内容や評価方法は学生便覧に掲載された授業要旨により学生向けに示されている。国家試験対策に向けた授業内容、教育方法の改善の努力がうかがわれる。

評価領域 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準に合致している。

校地・校舎は短期大学設置基準を充足している。諸々の施設・設備は良好に整備されている。

図書館の蔵書数はおおむね確保されているが、図書施設はさらなる充実が望まれる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

資格取得を目的とした教育内容・教育体制であり、その目的達成のために全学をあげて努力している。

卒業生の中には放射線技師として社会的に指導的な立場の人々が多数みられる。

就職・編入学の説明会・懇談会などで、卒業生・同窓会との接触が毎年行われていることは評価すべきである。

評価領域 学生支援

大学案内、募集要項が整備され、公正な入学者選抜が行われている。

学習支援のためのガイダンスや印刷物の発行は行われている。

学生委員会と事務課が連携して学生指導および厚生補導が行われているが、なお、キャンパス・アメニティやメンタルケアに配慮されたい。

就職支援、編入希望者への支援は充分に行われている。

評価領域 研究

学外での国際会議および学会での研究活動は活発に展開されている。

教員の研究旅費はあるが、短期大学独自の研究費の支給や研究紀要などの条件整備が望まれる。

評価領域 社会的活動

地域に向けた公開講座や学生による社会的活動は若干行われているが、積極的に促進することが望ましい。

評価領域 管理運営

理事会の開催回数は少ないながら年度を追って増えてきており改善が進んでいることが認められる。

専任教員会議があり、その上に教授会が設置されており短期大学運営体制が適切に確立されている。

事務職員数、事務処理のための機器および諸規程ともに充分整備されている。

就業規則が整備されており、それに基づいて人事管理は適切に行われている。

評価領域 財務

財務運営はおおむね適切に行われていると判断される。
必要な施設設備が整備され、その管理は適切に行われている。
定員も充足しており財務体質も良好であると判断される。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価委員会が組織され、報告書も公表されている。
自己点検・評価委員会を中心としてそのほかの各種委員会がそれに連動しており、ほぼ全員の教職員が参画している。
川崎医療短期大学と平成14年に相互評価が実施されている。
今回第三者評価を受けたことも含め、相互評価や学部評価の重要性を認識し、その結果を改革・改善に向けて取組む姿勢が感じられる。